

●●●●● 「特別の教科 道徳」の始まりに際して ●●●●●

教育庁指導部 主任指導主事 山村 智治

小学校では、「特別の教科 道徳」の実施が約2か月後に迫っています。「特別の教科 道徳」が始まれば、それまでの道徳教育上の課題が自然と解消されるというものではありません。教科化に伴う変化を消極的に受け止め、漫然と実施するだけならば、課題がそのまま残る可能性が極めて高いでしょう。教科化によって関心が高まっている今を好機とし、組織として、課題解消のために何らかの取組等を始めていただきたいと願います。その際、研究指定校や「特別の教科 道徳」の指導教諭、若しくは研究熱心な教員を対象にした限定的な取組でなく、教科として一般的な取組の方が全体性・継続性の観点からもよいと思います。いくつか、区市町村や学校で行える取組の例を挙げます。

① 実践事例の収集

区市町村で同じ教科用図書（教科書）を使用するのですから、実践事例を収集することは容易となるでしょう。それらを教材ごとに分類・整理します。計画である学習指導案よりも、子供たちの反応や感想、指導者の反省も記述されている実践事例の方が望ましいと考えます。

② 道徳部会等の充実

多くの区市町村では、各教科等の研究部を組織しているのですが、教科によって部員数に差があると聞いています。そこで、各校最低1名の教員を派遣し、その部会で、研究以外にも地域の実情に応じた研修会の設定や①で述べた資料の整理・分類、さらに研究校等への支援を行います。

③ 全体計画の別葉の作成

小学校において28年度は、別葉の作成は3割強に留まっています。教科書では、35単位時間以上の教材があるものが多いですが、そのためややもすると、重点目標に沿って内容項目を組み合わせたか、あるテーマに時間をかけたりするのではなく、全ての教材を前から順に指導するだけになってしまうことも予想されます。そうならないためにも別葉作成は必要です。指導力を全体的に高めていけるような取組が粛々と進められればと思います。

掲載内容

- 「特別の教科 道徳」の全面実施へ ～指導と評価の充実に向けて～
- 平成29年度 東京ジュニア科学塾
- 学カステップアップ推進地域指定事業 成果報告会について

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存知ですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。是非、御覧いただき、参考にさせていただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、「学び応援ページ」に掲載しています。

（東京都教育委員会ホームページアドレス

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）

「学び応援ページ」を御活用ください！

**東京ベーシック・ドリルも
掲載しています！**

東京都教育委員会ホームページ・トップページ
の下の方に、このリンク用バナーがあります！



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jpへメールを御送信ください。

「特別の教科 道徳」の全面実施へ ～指導と評価の充実に向けて～

小学校では平成 30 年度から、中学校では平成 31 年度から、「特別の教科 道徳」が全面実施となります。各学校では、「特別の教科 道徳」の指導内容や指導方法の工夫、評価の在り方等について、研究や研修、そして実践が進められています。

「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて、「今、できること」、「今、やらなければいけないこと」に、全校体制で着実に取り組んでいくことが大切です。

指導の充実に向けて

● 発問を工夫する① 「自分事」として考えさせる発問へ

教材の特性に応じて、「登場人物の心情を理解させる」発問を踏まえ、自分を投影させる「自分事」として考えさせる」発問を加えてみましょう。

(例) 教材「雨のバス停留所で」(「私たちの道徳」小学校 3・4年 p.127)

◆ 「このとき、よし子さんはどのようなことを考えていたのでしょうか。」 ← よし子さんの理解

◆ 「あなたが『よし子さん』だとしたら、お母さんにどのようなことを伝えますか。」 ← 自分を投影
「よし子さん」になったつもりで考えさせることで、「よし子さん」に自分を投影させ、教材の中の出来事を「自分のこと」として考えさせることができます。



● 発問を工夫する② 見方・考え方を「広げさせる・深めさせる」発問へ

4人が「同じことを述べる」話合いのテーマから、4人が「異なる意見・考えを述べる」テーマへと話合いのテーマに工夫を加えてみましょう。

(例) 教材「言葉の向こうに」(「私たちの道徳」中学校 p.81)

◆ 「『加奈』が忘れていた『一番大事なこと』とは何か、話し合ってみよう。」 ← 答えが集約されていく

◆ 「コミュニケーションする上で、自分は何を一番大切なことと思うか、互いの考えを交流させてみましょう。」 ← 答えが拡散する

「加奈」が気付いたことをもとに、自分は何を大切にすることを考えさせ、話し合わせることで、自分とは異なる意見・考えに触れさせることができ、ものの見方や考え方を広げさせたり深めさせたりすることができます。



【小学校第5学年及び第6学年 A・顕微、印刷】		活用例
【主題名】	生活を豊かに安全に実用技術	「ながら」
【ねらい】	安全に実用技術することの大切さや理解し、自分の生活を豊かに、創意工夫や発明に心掛けることについて理解を深める。	
【教材名】	「ながら」	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材の内容に興味や関心をもち導入 ● 「ながら、面白い」と思った場面をさがすことばあてをする。 ● 好きなする場面や興味のある場面をさがすことばあてをする。 ● 携帯電話やスマートフォンだけでなく、思いやりのあることをしている場面をさがすことばあてをする。 ● 「ながら」の場面、このよう場面をさがすことばあてをする。 ● 79の場面について話し合える。79の4までを読んで ● 場面2 「一つ一つと進んで、いろいろなことを進めているか、進められたら、進められたことばあてをする。 ● 場面3 「どうして進められたか、進められたことばあてをする。 ● 79の8から最後までを読んで ● 場面4 「話し合う」 	
展開	<p>「生活の中で『同じようなこと』をして、『はっとした』ことはありますか、その時、どうしてそのようにしたのでしょうか。」</p> <p>「このように起こる原因として、『安全への配慮』についての理解が十分だった」、「理解はしていたが、これくらいなら大丈夫だろうと判断が甘かった」、「理解はしていたが、自分のために、進められてしまったら、まじかっこと感がある。」</p> <p>「進められたことばあてをしたこと」を、原因ごとに分類するなど、創意工夫するなどの発展的である。</p>	
まとめ	<p>「自分の生活を豊かにした時、どこでどのような危険が潜んでいるでしょうか、そのように安全に暮らしていくためには、どのようなことを心がけていけばよいでしょうか。」</p> <p>グループで意見を話し合い、危険箇所や危険な場面について理解を深めさせる。</p> <p>それぞれのグループから話し合った内容を発表させ、学校内で共有する。</p>	
総括	<p>自分自身からどのようなことを思い出して、いかに進められたか、ワークシートに記入させて授業のまとめにする。</p>	

平成 28 年 3 月に各学校に配布した DVD 「『特別の教科 道徳』移行措置対応教材及び活用例」には、「特別の教科 道徳」移行措置対応 東京都道徳教育教材集」掲載の 51 の教材の活用例を載せています。

「特別の教科 道徳」の考え方にに基づき、じっくり考えたり話し合ったりしながら道徳性を育てていけるよう、展開や発問に工夫をした活用例になっています。

発問の立て方や話合いの設定の仕方など、他の教材で授業を行う際にも、参考にさせていただきます。



「特別の教科 道徳」移行措置対応 東京都道徳教育教材集



に掲載しています。

評価の充実に向けて

道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているか、多面的・多角的な見方へと発展しているかといった点を重視して、評価します。そのために、以下のような評価のための資料を収集・蓄積することが大切です。

◆ 授業の前と後とで、どのような「変化」(発見・広がり・深まり)があったかを見取れる評価資料

◆ 継続的に「変化」(発見・広がり・深まり)を見取っていくことができる評価資料

「特別の教科 道徳」授業力向上セミナーを開催しました

「特別の教科 道徳」の優れた授業実践を紹介し、指導内容や指導方法の工夫について、多くの先生方に理解していただくため、今年度も、『特別の教科 道徳』授業力向上セミナーを開催しました。

東京都道徳教育推進委員の先生方に授業を公開していただくとともに、参加された先生方による協議会を実施しました。協議会では、公開授業を振り返りながら、指導方法の工夫や自校の課題、今後の取組などについて、活発な意見交換が行われました。

9月26日 (火)	世田谷区立池之上小学校
10月13日 (金)	東大和市立第八小学校
10月17日 (火)	中野区立鷺宮小学校
10月27日 (金)	渋谷区立神南小学校
10月31日 (火)	豊島区立西池袋中学校
11月2日 (木)	練馬区立光和小学校
11月6日 (月)	新宿区立四谷中学校
11月9日 (木)	多摩市立青陵中学校
11月20日 (月)	江戸川区立一之江小学校
11月28日 (火)	目黒区立大鳥中学校
11月30日 (木)	多摩市立多摩中学校
12月11日 (月)	江東区立深川第三中学校



〈 公開授業の様子 〉



〈 協議会の様子 〉

★小学校6回、中学校6回計12回実施
延べ参加人数 552名

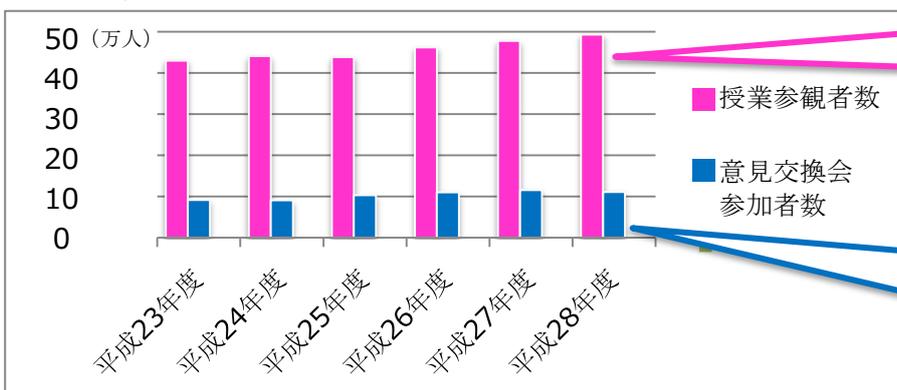
多くの先生方に御参加いただきました。ありがとうございました。

【参加された先生方の声】

- 授業での教材提示の仕方や先生の声のかけ方、子供の発言の受け止め方など、自分の授業を振り返る貴重な機会になりました。協議会では、公開授業で提案された指導の工夫について、自分では気が付かなかった視点からの様々な意見を聞くことができ、とても参考になりました。
- 道徳の時間の教科化に向けて、道徳の授業をよりよいものにしたいと強く思いました。工夫をして授業をするのが楽しみになりました。また、今後の授業改善のために、より一層、校内で力を合わせて取り組んでいく必要があると強く感じました。

道徳授業地区公開講座の意見交換会を充実させましょう

道徳授業地区公開講座 参観者数の推移



公開授業の参観者数
約50万人(28年度)
年々増加傾向

その一方で...

意見交換会への参加者数は
授業参観者の約22%
28年度は前年度比4.4%減

家庭・学校・地域社会が一体となった道徳教育を推進するためには、三者の協力体制をしっかりと整えることが不可欠です。道徳授業地区公開講座は、その基礎固めの場です。授業を参観していただくだけでなく、意見交換会にも多くの方に参加していただき、活発な交流を図ることが大切です。

お知らせ

道徳授業地区公開講座の意見交換会で、子供たちの豊かな心を育てることについて、大人たちが一緒に考えるための意見交換会導入ビデオ資料を作成いたしました。平成30年3月に各学校に配布予定です。意見交換会の充実にご活用ください。



「理数教育の窓」 —理数好きの子供たちを育てるために—

平成 29 年度 東京ジュニア科学塾

東京都教育委員会では、理数教育の充実に向けて、児童生徒の理数に関する興味関心を高めることを目的とした様々な取組を実施しています。

今回は、その一つである「東京ジュニア科学塾」の取組を紹介します。

東京ジュニア科学塾とは

東京都から未来の科学技術を担う人材を輩出するため、東京都内の公立中学校（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程を含む。）の1年生と2年生が科学に関する専門家等による指導を受ける「東京ジュニア科学塾」を実施しています。年間3回、専門家による講義等を通して、最先端の科学に触れることができます。

第1回 「世界一の地震・火山大国、ニッポン」

神戸大学海洋底探査センター教授 巽好幸先生をお招きし、「世界一の地震・火山大国、ニッポン」という題目で、私たちが生活している日本で、地震や火山大国日本で暮らしてゆくための心構えについて考えました。



第2回 「拡がるエンジニアリングのすそ野」

東京大学大学院教授 大島まり先生をお招きし、工学と医学・バイオの融合から、コンピューターシミュレーションの最前線がどのように現代の医療に活用されているかについて御講義いただき、専門分野と他の研究との融合の必要性について考えました。



東京ジュニア科学塾 専修コースとは

東京ジュニア科学塾では、科学に対して特に高い関心をもつ中学校2年生40名を対象として、年8回の専修コースも開催しています。本年度は非常に多くの応募があり、各校1名の選抜となりました。

専修コースでは、上記の講義の他に、東京学芸大学の佐藤たまき先生による実習・講義、富士電機での実習、筑波宇宙センターでの見学、葛西臨海水族園での実習などを行いました。次年度も募集を行いますので、ぜひ御応募ください。



講義・実習後にも、中学生ならではの疑問にとどまらず専門的な質問まで、とても活発に学習する姿が見られました。各回後のアンケートには、「私も興味のあることを解明する科学者になりたい。」など、科学に対して関心を広げ、将来の職業としても大きな夢や希望を抱くコメントをたくさんいただきました。

第3回 2月11日(日)～ 国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室 五箇公一室長 ～

「なぜ外来生物は増え続けるのか？」

詳細は、学校から配布された資料や東京都教育委員会のホームページ等を確認してください。

http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/junior_science_school2017_03.html



学カステップアップ推進地域指定事業 成果報告会について

東京都教育委員会では、学カステップアップ推進地域として指定した区市町村に、平成27年度から3年間外部人材の派遣を行い、小・中学校の算数・数学、理科における教員の指導力向上、算数・数学における児童・生徒の基礎学力の定着を図ってきました。

これまで推進地域では、管下の小・中学校に基礎学力定着アドバイザーを派遣し、教員の算数・数学、理科の指導力向上(校内研修、授業研究等)を図ったり、外部指導員を派遣し、補習(放課後、土曜日、長期休業日等)による児童・生徒の基礎学力の定着を図ったりしてきました。また、連絡協議会(域内の研修会)を年2回程度開催し、各学校の取組・成果等の普及に努めてきました。

この推進地域での成果を全都に報告し、都内公立小・中学校の児童・生徒の基礎学力の定着を図るため、「学カステップアップ推進地域指定事業 成果報告会」を実施いたします。是非、御参加ください。

【成果報告会実施一覧】

地区	報告会会場・内容	日時
立川市	立川市役所	1月15日
	(1) 地域の状況 (2) 取組内容 (3) 成果と課題	15:30
東大和市	東大和市立第五中学校	1月18日
	(1) 地域の状況 (2) 取組内容 (3) 成果と課題	14:30
青梅市 (小学校対象)	青梅市総合体育館	1月24日
	地域の人材を活用した学習についての報告	14:00
青梅市 (中学校対象)	青梅市総合体育館	1月31日
	地域の人材を活用した学習についての報告	14:00
葛飾区	葛飾区立総合教育センター	2月 5日
	(1) 事業3年間の報告 (2) 成果と課題	14:00
東久留米市	東久留米市生涯学習センター	2月 7日
	(1) 取組内容 (2) 成果と課題	14:15
羽村市	羽村市生涯学習センターゆとろぎ	2月14日
	(1) 学力の状況 (2) 取組内容 (3) 成果と課題	14:00
武蔵村山市	武蔵村山市民総合センター	2月15日
	(1) 事業3年間の報告 (2) 各校の取組の紹介	15:00
福生市	福生市立福生第七小学校	2月23日
	(1) 授業公開 (2) 取組発表 (3) 講師講演	13:30
あきる野市	秋川キララホール	2月28日
	(1) 外部指導員の活用 (2) アドバイザーの成果 (3) 来年度以降の施策	14:20

平成29年12月22日に、区市町村教育委員会を通して各学校に、開催通知及び実施一覧、参加者名簿を配布しております。

なお、受付は開始時刻の20分前から行います。